



菅波 茂

2001年は国連が決定した「ボランテニア国際年」。趣旨はボランテニア活動の啓もう普及だろうと思われる。私はまったく異なった見方をしている。2001年はボランテニアが必要な年。すなわち、災害の発生や経済の落ち込みなどにより、弱者に対し例年以上のボランテニア活動が必要とされる年ではないかと思っている。

2001年1月から立て続けに大地震がエルサルバドルとインドで発生した。多数の死傷者、家屋の破壊も著しい。生活に困る人た

インド大地震緊急空輸

ちの姿を想像するだけでいたたまれない。1998年の正月はコロンビアの大地震に始まった災害のオンパレードの年であった。2001年も同じ気配を感じる。

AMDAは迅速に動いた。エルサルバドルの大地震では日本、ホンジュラス、ボリビア、ペルーそしてカナダの5カ国の支部の医師たちが現地に入り、インド大地震では日本、ネパール、そしてインド

の3カ国の支部の医師たちが救済活動を実施した。

「イリ」

インド大地震では貨物機「イリ」

ユーシン76」(40ト積載可能)でシヨベルカー、毛布、テント、飲料水、食料品、医薬品など31トの緊急空輸を行い、岡山空港から飛び立った貨物機はアームダバード空港に到着した。思えば、1999年5月のサハリン大地震と1996年12月の雲南大地震の時にも短期間で緊急空輸を実施した。

なぜ可能だったのか。自治体、企業、ボランテニア団体、宗教家、一般の市民ら。多くの人たちの善意の結晶である。共通項は弱者に共鳴できる岡山の精神風土だと思う。AMDA多国籍医師団の活動にとつて、岡山の精神風土は無形の宝だと思う。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)